パ

人援。

ンジェ村を支援するプロジェクトを発足しました。パタンジェ村は多くのトレッキ が被災されました。西遊旅行では被災した山間部の村の中でも、特に目が届きにく ングガイドの出身地で西遊旅行創立当初から40年以上に渡って縁のある村です。 い地域へのダイレクトな支援が出来ればとの思いから、 2015年4月25日、ネパール中部で発生した地震、その後の余震により、多くの人々 ソル地方タプティン郡パタ









だのが小・中学校の修理です。

第二弾プロジェクトとして、

次に取り組ん

石積みの校舎 一部が崩れ、

り切ることが出来ました。 ンを使用し簡易小屋を作 用することが出来ます。村人たちはこのトタ

無事に雨期を乗

トやテントを送るよりも将来的に有効活

ンを45軒分購入し送りました。トタンはいず 第一弾プロジェクトとして雨除けになるトタ

住居を再建する際の資材となるので、

ブルー

たのは間もなくやってくる雨期対策。

まずは、

まいで寝泊まりをしていました。急務であっ

震災後、村人はブルーシー

トで覆った仮住

中学校の修復

は震災の際、全壊ではないものの、

上/第二弾プロジェクトで建てた木製の校舎と子供たち。**左中**/第一弾プロジェクトと してトタンを搬入する様子。**右中**/パタンジェ村の風景。**左下**/震災直後、校舎に入れ ず屋外で授業をする子供たちの様子。**右下**/今回訪れた際に歓迎式典を催してくれ、村

で勉強をしていました。

第二弾プロジェクト

既存の校舎の修理

怖く、子供たちは約 3ヵ月は、屋外のテント 童がいなかったことは幸いでしたが、余震が 教室内も荒れてしまいました。亡くなった児

の子供達による踊りの披露してくれました。 下/トタン屋根を取り付ける様子

ました。この校舎は特に

に強い木製の校舎を建て だけでなく、新たに地震

地震の際に逃げるのが遅

低学年の子供たちが

れています

勉強する教室として使わ

活動する様子。

後は水場の水が減らなくなったとの事で、効

プ

ロジェクト実行チーム P.R.C

の存在

無駄に漏れている箇所もありましたが、整備

朽化しており、

地震後は特に管が壊れて水が

うことにしました。以前の水道管はかなり老 水道管の整備と頑丈な鉄製の電柱の設置を行 ラインの修理が先決であると考えました。

村

上/古い電柱と新たに設置された鉄の電

柱。**下**/プロジェクト実行チーム P.R.C の

人と協議した結果、

各家庭に水を引いている

現状効果が無いと判断し、

もっと公のライフ

を建て直す余裕がない時に資材だけ届けても

かし、村人の金銭的理由等から、

まだまだ家

ト等の資材を届ける事を考えていました。し

続く第三弾プロジェクトはプロジェクト発

個人宅を修理するのに必要なセメン

葉をいただきま

した。

る踊りの披露があり、そして、

支援金をお送 子供たちによ

いただいた皆様に変わって多くの感謝の言

した。お茶や地酒が振舞われ、

い水道の整備と鉄製電柱の設置

果があったようです。電柱はもともと丸太で

各プロジェクトにかかった費用

者たちで構成された約13名のパタンジェ村民 ガイドのビル・バハドゥール・マガールと若 事が出来たのは、西遊旅行初代ト

レッキング

ロジェクトを不正なく、

しっかりと遂行する

多くあるのもネパールの現実です。今回のプ ない、不正利用されている、そのような話が

皆様よりお預かりした支援金 2,704,977円 これまでにネパールに送金した額 2.800.000円

1. トタンプロジェクト 860,000NRS 2. 小・中学校の修理と校舎建設: 290.430NRS : 763,500NRS 水道の整備 515,460NRS 鉄の電信柱の設置

合計: 2,429,390NRS

とても 現状など問題がまだまだ多いパタンジェ村で ものです けでなく、 が、今後も彼らの活躍に期待 感銘を受けました。 他の山村部と同様に過疎化が進む 震災からの復興だ してい き

をいただきました。西遊旅行はこれからもパタ ンジェ村、ひいてはネパールを応援してゆきま ジェ村の人々が救われ、 からの暖かい支援のおかげで、多くのパタン だいたことを、改めて感謝申し上げます。皆様 この度は、 暖かく見守りいただければ幸いです。 皆様よりたくさんの支援金をい たくさんの感謝の言葉

16 きんと雲 vol.34

タプティン郡の郡長やパタンジェ村長らも出 日には、予想していなかった、村人だけでなく、

席しての大規模な歓迎式典が用意されていま

屋が点在する長閑で美しい村です。

到着した

プロジェ

クト

チー

ч P.R.C (Phatanje の存在があったか

Reconstruction Campaign)

らでした。

彼らのように自ら立ち上が

の為に奮闘する若者たちがいることに、

訪れました。段々畑の広がる斜面に素朴な家

この4月に7名のお客様とパタンジェ村を

タンジェ村を訪れて

て暮らせるようになりました。 ものに取り換え、これで、より からない状態だったものを全て頑丈な鉄製の

のです。

支援が本当に必要な場所に届いてい

現場に届いているかなかなか見えてこないも

日本から支援金を送金するだけでは実際に

したが、朽ちて傾いており、

いつ倒れるか分